

令和4年度 能美市総合教育会議 議事録

I 日 時 令和5年2月27日(月)

開会 15時30分 閉会 16時50分

II 場 所 能美市根上総合文化会館 2階 204研修室

III 出席者

【構成員】

市 長	井出 敏朗
教育長	谷口 徹
教育長職務代理	徳野 伸彦
教育委員	南 俊博
教育委員	輪島 寿代
教育委員	竹本 里奈

【教育委員会事務局】

管理局長、管理局次長兼教育総務課長、学校教育課長、学校教育課長補佐
まなび文化課長、スポーツ振興課長

【司会進行】

管理局次長兼教育総務課長

IV 内容

- 1 開会
- 2 市長挨拶

(市長)

教育委員の皆様方におかれましては、常日頃から能美市の教育行政の振興に対しまして、ご理解とご協力を、また教育力の向上に対しまして多大なご尽力をいただきまして、心からお礼を申し上げます。

現在能美市では季節性のインフルエンザが流行っておりまして、市内の小中学校では学級閉鎖の対応をしているところがございます。中学校では間もなく受験シーズンを迎えることもあり、教職員一同気を引き締めている状況であります。

さて、能美市総合教育会議の開催にあたり、本日は3つの議題を用意させていただきました。

一つ目は、能美市の学校教育における重点取組の進捗についてお伝えしたいと思います。能美市では、子どもたちが「元気に明るく笑顔で毎日登校する」ことを目指して取組を進めております。確かな学力を育む、豊かな人間性を育む、心身の健康を育むというそれぞれの目標に向かって様々なことを行っておりまして、本日は、それを深掘りした形でご紹介したいと思っております。

二つ目の議題は、能美市における“N e x t” G I G Aスクール構想でございます。G I G Aスクール構想をスタートさせて丸2年を迎えようとしております。能美市ではクロームブックを全児童生徒に配布し、また、全ての教室に電子黒板の配置をいたしました。これに伴って、次のG I G Aスクール構想をどう取り組んでいくのか、能美市が目指す次の段階のG I G Aスクールの姿について検討していきたいと思っております。

三つ目は、能美市の地域運動部活動の取組と今後の課題についてです。先生方の働き方改革も考慮しながら、市民の皆様方に部活動の指導を担っていただくという「地域移行」が進められています。能美市でも来年度以降どう進めていくかということをご紹介させていただきたいと思っております。

時間は約1時間ほどを予定しておりますけれども、どうか慎重審議を賜り貴重なご意見をいただきますことをお願いを申し上げ、冒頭の挨拶とさせていただきます。

本日はよろしくお願ひ申し上げます。

3 議題

(1) 能美市の学校教育における重点取組の進捗について

(2) 能美市における“N e x t” G I G Aスクール構想について

(3) 能美市の地域運動部活動の取組と今後の課題について

(事務局)

能美市の学校教育における重点取組の進捗について学校教育課長が説明

(南委員)

私をはじめに教育委員の業務に携わったときに、最大の課題が学力で、これを何とかしなくてははいけないと思っていました。先生方の努力それからコミュニティスクールの関係のいろんな地域の方々の努力のおかげだと思います。非常にありがたいと思っています。以上です。

(徳野委員)

このアンケートで、家庭・地域・学校の連携の推進で先ほどご紹介していただいた、能美市が好きだ、どちらかと言えばあてはまるも含めて9割近いというのが非常に良いと思います。これはお子さんのアンケートですよね。やはり能美市が好きだということは非常に良いことだと思いますし、あとはこの子たちが成人した後にどうやって戻って来てくれるかというのが課題の一つだと思っています。私は校務支援ソフトというものを初めて聞いたんですが、校務支援ソフトでだいぶ校務の時間が削減されたのでしょうか。具体的に時間的なものなど何かわかるものはありますでしょうか。毎年学校訪問させていただくと、先ほどおっしゃったスクールサポートスタッフの方などが常駐されていて、学校内のいろいろな業務が分割されて、それぞれの業務に合ったようなお仕事をさせていただいているということで、働き方改革と言いますか時間の削減につながっていると思うのですが、校務支援ソフトというものはどのようなものなのでしょうか。

(学校教育課長)

ご質問ありがとうございます。まず、先ほどの能美市が好きだというアンケートですけれども、ここでは5年生の結果を載せてあります。中学校2年生の結果においても9割近い結果が出ております。また、今ご質問いただいた校務支援ソフトで

すが、県下統一の支援ソフトC4th（シーフォース）というものを能美市でも導入させていただいております。このことにより、各学校が同一のシステムを使ってデータや情報を共有出来たり、あるいは各先生方も同じソフトを使って時間割の作成やそれぞれの個々の記録などの作成をしております。まだまだ導入したてということで、令和5年度より完全移行となっておりますので、紙ベースの帳票そのものがデジタルに変わっていく、また来年度以降より一層時間的な効果も期待できると考えております。

(輪島委員)

[知] 確かな学力を育むの説明のところで、教育支援員やスクールサポートスタッフを配置されたというふうにご説明いただいたのですが、学校訪問していると確かに助かっているとは思いますが、まだまだ足りないと思うんです。もう少し支援員やスクールサポートスタッフの数を増やしていく予定はあるんでしょうか。

(学校教育課長)

ご意見ありがとうございます。学校の意見としまして、今年度能美市全体としては13名分の予算配分があり、実際のところ11名動員という形で各学校で働いていただいております。大変学校の方は助かったということ聞いております。それで全力を挙げて人をお願いしている最中ですが、なかなか十分な人をお願いできずに、今はお願いできるだけの数ということで配置をしております。今後とも学校の要望を聞き取って、来年再来年の必要数を把握しながら適正な人数を配置できるように考えてまいりたいと思っております。

(市長)

具体的に令和3年度までが何人で、令和4年度は何人でしたか。

(学校教育課長)

昨年度までは31名、令和4年度は13名プラスして44名の予算をいただきまして現在42名配置しております。

(徳野委員)

今年度のスタートの時に不登校というものが議題に上がっていたと思うのですが、中学校に関して、令和元年度から不登校生徒数の県の平均との比較で能美市は石川県よりも少し多い状態から令和2年度に若干良い傾向になって、そして令和3年度でまた増えていますよね。主な要因としては、私も学校でいろいろお話を聞いていると、人間関係が多く占めているというのと、どうしても先生や学校が中に踏み込めない家庭の事情があるということを知っています。令和2年度から3年度に不登校児童生徒数が上がった要因はどのようなものがありますか。コロナ禍ではありますが教えていただきたいです。

(学校教育課長)

徳野委員さんが言われるようにそれぞれの様々な要因があると捉えています、その中でも学校教育に限って申しますと、やはりコロナ禍で横のつながりがなかなか持ちにくかったというのが要因の一つであると捉えています。来年度に向けてコロナの感染状況が和らいでいく頃には、もう少し横のつながりもしっかり持てるような取り組みを復活させながら、居場所や絆づくりというものを大切にして学校が魅力あるものになるようにしてまいりたいと考えています。

(徳野委員)

そうですね。私は、県の平均より下とか上とかいう問題とこれは違う問題だとも思っていて、より少なくしていかなければならないことだと感じています。手間だと思うのですが、立ち入れる部分とどうしても立ち入れない部分があるのも承知をしている中で、できたらもう少し原因を1つ1つ潰していってほしいと思います。せっかくこれから未来を担う子どもたちのことなので、こういうところで潰れていって最後には社会に出られなくなる子どもさんとか、そういう風になった大人をよく見えていますし、大きくなってもこの時のことを引きずって社会に出ていくと、なかなか社会に参画できないこともあるというところで、やはりそういうような子どもたちを何とか救ってあげたいという気持ちでお願いしたいと思っています。よろしくお願ひします。

(司会進行)

ありがとうございました。大きなテーマでしたので、冒頭からたくさんのご意見やご質問ありがとうございました。それでは議題2にまいりたいと思います。

(事務局)

能美市における“Next”GIGAスクール構想について学校教育課長補佐が説明

(南委員)

1つの質問と1つの提案をしたいと思います。GIGA導入以降は協働的な学びの充実、全ての子どもの可能性を引き出す、1人1人の考えを瞬時に把握できるというお話がありましたが、先生は1人で相手は20人から30人で、視覚だけでいろいろやるというような形になるとかなり先生は苦勞すると思うんです。それが何か記録したものがあれば後ほど目で見えて考え直すことはできますけど、私は先生方かなり大変ではないかという恐れを感じたものですから、そのあたりどうなのか教えていただけますか。

(学校教育課長補佐)

授業の中で全ての子どもの考えを毎時間把握するのは確かに難しいことだと思われませんが、教師も工夫しておりまして、例えばAの考え方のカードを選んだ子の背景をピンク、Bのカードを選んだ子の背景をブルーにするなど、色で識別できるようにしておいて、子ども自身の学びを助けることができます。そういった判別をする工夫でありますとか、あとその時だけではなく子どもが提出したカード自体をクラウド上に蓄積していきますので、ポートフォリオとして評価の成果物として利用することができるので、逆に今までノートや紙で集めてかさばってきたものがデータ上で蓄積されるので、教師にとっては振り返って評価をすることに効率的になったと思われまます。

(南委員)

大事なことですよね。できるのであれば時間はかかるかもしれませんが、成果があがるのであればいいことだと思います。次の提案ですけれども、毎回の計画訪問などで見ていると、だいぶICT化が進んでいるなという感じです。以前にも話題に出したことがあります。授業をビデオに撮るという学習方法があります。数か所にカメラを置いて照明もセットして画面を映すというような形で授業を録画し、それを10分くらいの長さに編集したものを授業の1つとしてその様子を子どもたちに受動的に学習させるという方法です。そこで学んだ成果というのはAIドリルでかなり受動的にできると思います。もしスタジオがあれば、効果があまり表れていないグレーゾーンの子どもたちに向けて実際に授業をしていただいて、それをビデオに撮って閲覧できるようにする。録画すると普通の授業よりも有利な面がいくつかあるんです。例えば、分かっているところは早送りする、分からない時はもう1度見直す、そういうような別の特色がありますから、1つのツールとしていろいろな子どもたちの適性を考えてこういう方法での学習もプラスするという形でやると効果が出てくるのではないかなと、もう少し学習への意欲が湧くかもしれないし、能力が上がる可能性はあるんじゃないかと思います。そして、今世間に出回っているいろいろな教材ではなく、みんなに作ってもらって能力が落ちている子や興味を持たない子などがビデオを作って意図的に学習できる、そして成果はAIドリルで測るみたいな形でやったら効果があるのではないかと思います。

(司会進行)

具体的な経験も踏まえて、ご提案いただきましたのでまた検討を進めたいと思います。ありがとうございます。それでは次の議題3にまいりたいと思います。

(事務局)

能美市の地域運動部活動の取組と今後の課題についてスポーツ振興課長が説明

(徳野委員)

ソフトボール、ハンドボール、陸上競技から取組を始めた理由は何ですか。やりやすいからですか。

(スポーツ振興課長)

はい。市のスポーツ協会と相談した結果、その3つの競技団体が手を挙げてくださったからです。

(徳野委員)

そういうことですね。順次バレーボール、野球、剣道、バスケットボールもそのような理由からですか。

(スポーツ振興課長)

それもありますし、協会も賛同してございまして、ふるさと振興公社も競技について指導者派遣をするということで、いろいろな団体からの協力を得ましてこちらの7競技に至っております。

(徳野委員)

教育委員会会議の場でお話したのですが、先日県の教育長職務代理者の集まりの中で、この取り組みに対して各市町から報告してくださいという場があり、いろいろ教えていただきながら報告してきたんですが、能美市は非常に取組的に早く行っているんですが、一方で能登の方はこんな考えられないと言うんですね。やはり私もそのあとに新聞等の報道を見ましたが、大都市部は全部丸投げで、他の民間会社に委託してそれでよいかもしれないけれど、地域の差はすごくあると思うんです。そうこうしているうちに、移行期限を設けなくなったという新聞記事も拝見して、あまり性急にやれるものじゃないんじゃないかということを感じています。いろんなところの実態を調査されたうえで全国的にやるのならいいと思うのですが。実際先ほどのICTの関係でも穴水町のところで家庭にICT機器を持って帰っても、山のほうではWi-Fiがつかないんです。能美市はそんなことはないと思いますが、地域移行に関しても多分非常にいろんな問題があって、まだそういうことも考えられる前の状態であるというその地域の差はすごくあると思います。私もう一つお聞きしたかったのが、これは学校教育課にも関係があるかもしれないですが、教員の方のやりがいというところの話がなかったもので気になりました。果たしてすべての先生が本当に部活動を切り離して私たちは学業だけでいくんだというような考えなのでしょうか。やはりそこに部活動

がついてやりがいを持たれている方はいると思いますし、今後教員の仕事に携わる上で学業以外にもやりがいを持てるようなものが私は必要だと思います。先生がやりがいを持てなければその熱意も志も生徒に通じていけないと思います。もちろん、やりやすいものも含めて残った部活動が全部能美市として地域移行が可能になるのだろうかと思う部分もあります。他にももっともっと課題がたくさんあると思います。ぜひ対象にする競技のことだけでなく、生徒や保護者の方々はこういうことに対してどう思っているのか、そういうところがもう少し分かるといいかなという思いがあります。できたら先生のやりがいの部分も本当にそういう方がどれくらいいらっしゃるのかというのがもう少し分かったほうがいいんじゃないかと思っています。この仕組みをどうするかということに対して何も反対するわけではないですが、本当に全てできるのか、自分の娘の時にも感じましたが、指導者の質や送迎の問題、事故が起きた時の責任など、いろいろなことがどうなるのかと、保護者の方も不安な面がたくさんあると思います。私はこれを進めなければいけないのはよく分かるのですが、もう少しいろんなところを調査されたうえでしっかりとしたものを作っていただきたいなというお願いです。

(司会進行)

ありがとうございます。学校教育課から簡潔に教員のことをございましたら一言だけお願いできますか。

(学校教育課長)

アンケート結果にも示した通り、先生には部活動がやりたいという方もいらっしゃるわけですが、兼職兼業の許可等の課題、部活を離すことによって子どもとの信頼関係や関係づくりで課題があることは認識しております。今後国の方針などを見定めて前に進めていきたいと思っています。

(司会進行)

委員の皆様からはご質問、貴重なご意見を賜りました。ありがとうございました。最後になりますが、市長からは全体を通したご意見をいただきたいと思っています。お願いいたします。

(市長)

貴重なご意見をいただきありがとうございました。最初の重点取組の進捗についての項目の時に、不登校に関するいろいろなご意見を頂戴いたしました。不登校に関しましては、支援員を増員していくということが一つの大きな効果を示すのではないかと思います。やはり児童生徒個人に対して先生が直接触れ合える機会を増やすということが大事なのではないかと思っています。もう一つ効果があるのはコミュニティスクールスタッフの存在であります。先日文科大臣の表彰を受けられたことで、表敬訪問をいただいたときに、スタッフの皆さんとお話をしていましたら、朝スタッフの皆さんが児童生徒を出迎えていらっしゃる、その時に先生とは違った雰囲気ですぐ温かく接することで子どもたちが家庭にいるような雰囲気で学校に来られるということが大きな効果を示しているんじゃないかという思いをしまして、やはり一人ひとりの児童生徒に対してきめ細やかな、そして家庭にいるような雰囲気で接するということがこの不登校を少しでも減らしていける要因ではないかと思っております。いろいろな取組を強化していきたいと思っております。

そして、“Next”GIGAの意見に関してでございますが、授業をどうやって進めていくかということは、これまではそれぞれの学校で学年ごとに主任さんが決めていたというのが今までのスタイルなんです。GIGAスクール構想を立ち上げた時にそれぞれの学校での取組、あるいは例えば理科や社会の何年生の教え方を能美市教育委員会の中で全部共有してくれという話をしているんです。つまり、この学校のGIGAスクールでやっていることは他の学校でも共有できる、また、ある学校で課題となっていることは他の学校でも課題として共有し、そして課題解決に向けて取り組んでいくようにやってほしいというような、まさにチームでやろうということに取り組んでおりまして、先ほど発表させていただいたこともチームとして一丸となってやっていくということでございますので、是非ご支援頂ければと思います。

そして、最後の部活動の件に関してですが、部活動というのは試合に勝つことや競技力を向上させるということだけではなく、友情を育んだり、同級生だけではなく先輩と後輩との交流を深めることも大事です。試合に勝つ、負けた時に涙

を流す、汗をかく、練習の時にも歯を食いしばってやるんだというまさに人間性をどう作っていくかというのが部活動でありまして、やはりそういった意味では指導員をどう確保していくのか、あるいは学校の先生がそこにどう携わっていくのかということが大事だと思っております。委員の皆様方からご指摘いただいたことをしっかりと我々も胸に刻んでいきたいと思っておりますので、どうかご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。今日はどうもありがとうございました。

4 教育長閉会挨拶

(教育長)

委員の皆様、本日は本当にお疲れ様でございました。どうもありがとうございました。

冒頭、市長からもご挨拶の中でありましたように、新型コロナウイルス感染症だけではなくインフルエンザの影響などもあって教育活動も大変困難な状況が続いておりますけども、現場を預かる先生方はこの3年間コロナと闘いしっかりと子どもたちの学びのために努力してくれたと思っています。引き続き子どもたちの学びを止めずに、成長を促進するというような取組を進めていきたいと思っております。その先に見えるものというのは先ほどのプレゼンの中にもありましたように、子どもたちが自分自身の可能性を最大限引き出されて創造性を伸ばしたり、あるいは個性を伸長する姿を実現するという事ではないかと思っております。文科省はこれを「令和の日本型学校教育」と言っているわけで、これを実現する、能美市もそういうことで頑張っていきたいという風に思っております。令和5年度はそういうことを念頭において6つのことを頑張りたいと思っております。

一つは、学力向上のための教員の授業改善を含めて“Next”GIGAスクール構想を実現していくことです。

二つめは、いじめ、不登校への対応です。石川県でも痛ましいいじめの事案がありました。報道では、学校や教育委員会の対応が不十分であったことが指摘されているわけで、こういったことが二度と起こらないようにしっかりと関連法律や能美市のいじめ対応マニュアルの理解を学校に徹底させて、痛ましい事故や事件が起こ

らないようにしていきたいと思っております。

三つめは、教員が本業に集中できる環境づくりであります。能美市における質の高い授業を実現するためには、教員が安心して本来すべき業務に集中できる環境づくりが大切だと受け止めており、これに取り組んでまいります。

四つめはコミュニティスクールの充実であります。今ほど市長がおっしゃったとおりだと思っております。地域や地域の大人から大切にしてもらった、大切なことを教えてもらったという経験は何ものにも代えがたい経験だと思いますし、子どもたちの体験的豊かな学びを保障するために地域社会が一体となる取組、これは能美市の自慢の取組だと思っておりますので、これをさらなる高みに押し上げたいと思っております。

五つめは、部活動の地域移行であります。能美市としてはふるさと振興公社の潜在的に持っている力を活用しながら地域移行をしっかりとしていく。その時には市長の話に出てきたような部分で子どもたちを育てる、教育的な部活動を実現していきたいと思っております。

最後に学校施設の充実であります。能美市の学校長寿命化計画が新学校給食センターの建設計画を皮切りに一体化が進んでいます。学校施設は子どもたちの学びであると同時に、様々な社会資源として活用できる可能性も秘めているわけで教育環境向上と老朽化対策を積極的に一体的に進めていきたいと思っております。こういった六つのことを重点に教育行政を進めてまいりたいと思っております。委員の皆様には引き続きご理解とご支援を賜りたいと思っております。

最後に、これらのことは皆様ご存知のとおり教育大綱に載っていることを進捗されてきたわけですが、この教育大綱も第2次能美市総合計画と整合性を図るために、令和3年度から3年間の実施ということで整備されたもので、令和5年度はこれをしっかり見直して、令和6年度からの次の3年間を見通す必要があります。そのことも皆様にお知りおきいただきたきたいということをお願いしまして、長々とお話をしましたけども閉会の挨拶とさせていただきたいと思っております。本日はどうもお疲れ様でございました。ありがとうございました。

5 閉 会

16時50分終了